

連載シリーズ 京都市内博物館施設連絡協議会（京博連）加盟施設紹介

第7回 琵琶湖疏水記念館

【はじめに】

先月紹介させていただいた「京都国立博物館」旧本館である「明治古都館」の設計が片山東熊で、その義弟が琵琶湖疏水工場の現場での中心人物であった田辺朔郎だった、という事を書かせて頂きました。

今回はその琵琶湖疏水に関連ある琵琶湖疏水記念館（以降、単に疏水記念館と省略）を紹介致します。

実は、この疏水記念館は今年3月8日にリニューアルオープンしました。

疏水記念館は、琵琶湖疏水竣工100周年を記念し、疏水の意義を1人でも多くの人に伝え、先人の偉業を顕彰するとともに、将来に向けて発展する京都の活力の源となることを願って、市民の協力のもと、平成元年（1989年）8月に開館しました。

更に開館20周年にあたる平成21年（2009年）には一時休館してのリニューアルが行われ、同年10月にリニューアルオープンしています。

そして今年が開館30周年を迎えるに当たり、小学生や観光客など幅広い皆さんが楽しみながら学んでいけるよう、展示や空間を刷新しリニューアルオープンしました。

【リニューアルの概要】

前回の開館20周年リニューアルから10年が経過する中で、来館者ニーズに沿った展示へと刷新されました。設定されたリニューアルコンセプトは、

- 1・印象的な空間演出
- 2・ストーリー性のある動線とゾーニング（コンテンツの閲覧を年代別に区分する）
- 3・分かりやすい展示
- 4・フィールドミュージアムの情報発信拠点化

の4点に基づき、大型テーマグラフィックやプロジェクションマッピング、水力発電体験装置など、体験型展示を導入したほか、蹴上周辺から山科、大津へいざなう散策マップを設置するなど、快適で分かりやすい空間・展示を通じて、琵琶湖疏水に関して知識をお持ちの方だけでなく、小学生や観光客など幅広い皆さまに琵琶湖疏水の魅力を伝えられるようにされています。

開館30周年記念 琵琶湖疏水記念館 リニューアルオープン（京都市広報資料より抜粋）



鴨東運河（蹴上舟溜）から見た琵琶湖疏水記念館の全景と手前にある京都市三大事業記念モニュメント

【訪問のきっかけ】

琵琶湖疏水に関しては、昨年の「明治150年 京都のキセキ」記念局 8N3MKKのHPの「活動日記」中に、

琵琶湖疏水記念館 映画上映参加

http://hamradio.world.cocan.jp/m150/kk_kinkyo0825.htm

琵琶湖疏水を歩く その壱

http://hamradio.world.cocan.jp/m150/kk_kinkyo0922.htm

〃 その弐

http://hamradio.world.cocan.jp/m150/kk_kinkyo0924.htm

〃 その参（無鄰菴と平安神宮・外苑）

http://hamradio.world.cocan.jp/m150/kk_kinkyo1002.htm

の記事がまだ閲覧出来ますので、是非もう一度ご覧ください。

正直、昨年の記念局を運用する中で琵琶湖疏水の事を詳しく知るまでは京都市民として「水道水」を何気なく使っているだけでした。

“蹴上”と聞けばGW中での《浄水場でのつつじの一般公開》位しか頭にパッと浮かんでこないくらいでした。

しかし、「京都インクライン物語」田村喜子著 という本を読んで感動し、初めて現地を訪れて疏水を自分の足で歩いた事で、明治維新後の落ち込んだ京都を再生させるきっかけの一つとなった素晴らしい業績を完遂した日本人の気概に感銘し、惚れ込んだことを今でも強く思い出します。

そんな業績を今回は小学生や疏水の事を全く知らない観光に来られた方にも理解してもらえるように作られたという事で、一体どのような風になったのか、以前から興味深々でしたので訪問したくて機会を狙っていたのでした。

【いざ訪問】

今回のリニューアルでは外観は変わらず、否1点だけ変わった所を発見しました。

丁度自転車を止めたところの正面の壁に張られていたプレートです。
開館30周年記念と書かれていましたHi。

また自販機もよ〜く見てみると、中に入っている物が丁度半分入れ替わっていました。以前はこの中は1種類のみ販売されていたのです。

それが、

“災害備蓄用飲料水 京のががやき「疏水物語」10年保存”
と印刷された琵琶湖疏水から作られた水道水です！ 1本100円



さて、いよいよ館内に入ってみます。



先ず目に飛び込んできたのが薄暗い明るさに押さえられた中に輝くアーチ状のLED照明と床を揺らぎのある光による演出です。天井は以前と変わらない四角い普通の構造なのですが、見事に疏水のトンネルの中に入ってきた印象をさせてくれています。

右手には「当代疏水名所図会」と書かれたパネルがあり、琵琶湖疏水沿線が紹介されています。

そして左の部屋＝ガイダンスシアターでは「すべては京都の未来のために」と題された、琵琶湖疏水工事にまつわる人々の情熱や苦難の物語やこれからの京都の未来のありかたを、イラスト、アニメそして時には実写映像と、何と疏水工事の立役者・田辺朔郎本人の声での回顧録まで映像で見れる、丁度10分の上映が見れます！！是非これをご覧になってからこの記念館の中を廻ると本当によ〜く理解出来ると思います。

(小学生ならびに観光客の方々にも理解していただけるほど分かり易く作られた短編映画になっています。)



ガイダンスシアターを見てから廻るとよく展示内容が理解できますので、必見です！

そのまま進むと第1展示室に入りますが、その前の壁面にQRコードが見えます。無料音声ガイダンス（4カ国語対応Wifi）の為のパネルが設置されていました。



【第1展示室 テーマは 琵琶湖疏水の計画と建設 —明治時代—】

時の京都府知事、北垣国道が京都を復興させるための一大プロジェクトとして計画した琵琶湖疏水を、測量技師・南一郎平や土木技師・田辺朔郎らによって実現に向けて建設されたかについて紹介されています。

南一郎平や島田道生といった当代一流の測量技師による精密な測量地図、堅坑の断面を描いたお抱え絵師（今の様な現場写真などの記録を残す為の手段として）の筆で、これがまた精細な絵（図）でこのような貴重な資料が展示されています。



但し、残念ながらこれらの貴重な資料は撮影禁止となっていますので、お見せ出来ません。
撮影禁止の資料はそんなに多くはないのですが、中にはこのように撮影禁止のマークが書かれたプレートが置いてありますので要注意です。

今回のリニューアルにおいて、実は展示点数が以前の約300点から1/3に当たる約100点にまで厳選された資料を展示し、代わりに画像などの資料はデジタル資料として検索して見る事が出来たり、VRを使って再現させたりすることでそれらを補っても余りある内容となっています。

この第1展示室では、プロジェクションマッピングによる大画面での疏水工事の行程や規模を写し出して、より実感出来るものになっています。

【2Fへ】

1階を見たのち、階段で2階に上がってみました。
この2Fは基本的には変わっていません。特別展や講演等が開催される時に使われるAVホールやギャラリースペースの他、資料収蔵庫や作業室があります。

この2階の窓から外の蹴上舟溜から鴨東運河が見渡せるのですが、明治28年に開催された第4回内国勸業博覧会当時に撮影された写真が壁に飾ってあり、現在の眺めと比較出来るようになっています。

さあ、変わっていると感じでしょうか？

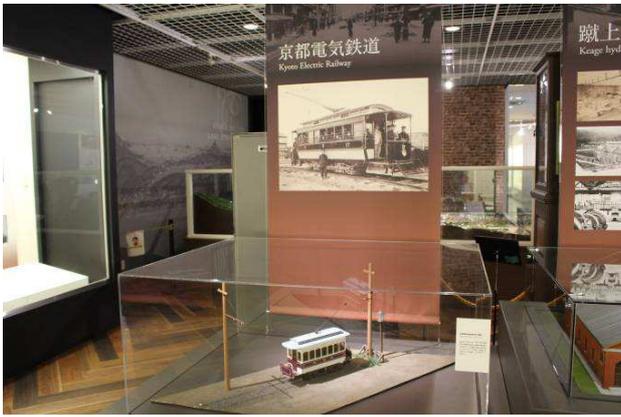


それでは、今度は階段を降り、1階で180°廻って地下1階まで降りてみることにします。
地下1階に降りて向って左が第2展示室、右手が第3展示室になっています。

【第2展示室 テーマは 京都 近代化へのあらし —大正・昭和時代—】

明治23年に完成した第一疏水に水力発電の採用や、明治45年の京都市三大事業の完成(日本初の市街電車の運行など)によって、京都の人々がどのように街を発展させてきたのかが紹介されています。





京都電気鉄道の説明と車両（市街電車の模型）



当時の蹴上発電所の内部模型



大正4年頃の岡崎周辺の模型



中央部に南禅寺の水路閣が見えます



インクラインの軌道上を上下する舟を乗せた基台

琵琶湖疏水実現のため尽力した人物を紹介したり、大正4（1915）年頃の岡崎周辺の模型が展示されており、ボタンを選択するとLEDライトが点灯してその位置を教えてくれ、音声によるアナウンスガイドも聞こえてきます。

インクラインを選択すると何と小さな船を載せた台車が上から下りるものと下から上がっていくものが途中ですれ違って動いて行く様子も再現されます。

第2展示室とホールを挟んで反対にあるのが第3展示室です。

【第3展示室 テーマは 京都 近代化へのあらし ー今そして未来へー】

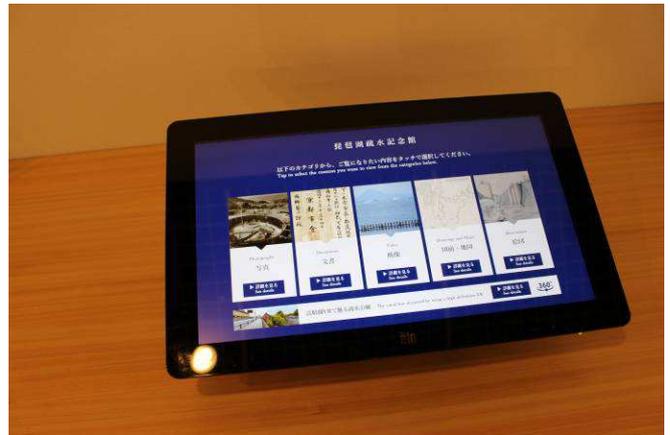
時代と共に果たす役割が大きく変わってきた琵琶湖疏水ですが、今も水道の原水を運ぶ他に水力発電も行っています。最近では疏水遊覧船も季節に合わせて復活運航し、周囲の景観も整備されて観光地の一環として多くの観光客も訪れるようになりました。

未来へと続くこれからの疏水の流れを確かめてみましょう。

という事で、この展示室では最新のVR（バーチャル・リアリティ）技術が導入され、疏水沿線の名所を360度映像で眺めながら散策できたり、タイムスリップして蹴上インクラインのVR動画を見ることも出来ます。



勿論、前に述べた展示作品数を凌駕する圧倒的な資料などを検索して見せることが出来る「デジタル資料閲覧コーナー」があってモニターに映し出されます。



展示室の中央部にはインクラインの大きな模型がドーンと据え付けられています。実際に使われたレールやそのレールを枕木に固定する犬釘も一緒に展示されています。



インクラインの模型 左が実際のレールで、右はそのレールを固定する犬釘です。

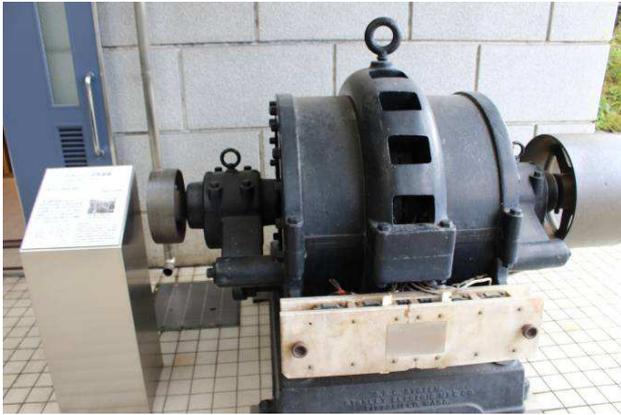
地下1Fの2つの展示室を鑑賞し終えたら、真ん中のホールから外へ出れる扉がありますので出てみましょう。

屋外にも展示物があり、目の前に大きな機械が飛び込んできます。

左手にモーターのような物がありますが、これが「スタンレー式発電機」という発電機です。第一期の蹴上発電所で実際に使われていた二相式交流発電機が置かれています。

性能は回転数1000回転分、電圧2000V、出力60KW、周波数133Hzというものです。

現在の発電機と違って、回転子にコイルはなく、固定子側に界磁コイルと電機子コイルの2つが取り付けられ、回転子が回転すると電極を通る磁力線が変化し、コイルに電気が起きることを利用して発電を行っています。



スタンレー式発電機と回転子、固定子のアップ

その右にあるのは更に大きいもので、「ペルトン式水車」です。直径2.4メートルの水車で、向こう側のはずみ車にベルトを掛けて発電機をまわしていました。

この形式の水車は、高落差用として現在でも黒部第4発電所などに使われているそうです。

以上



開館時間：午前9時～午後5時

入場料：無料

休館日：毎週月曜日（月曜が祝日・休日の場合は翌平日が休館）
年未年始（12月29日～1月3日）

地下鉄東西線「蹴上」駅下車 徒歩7分

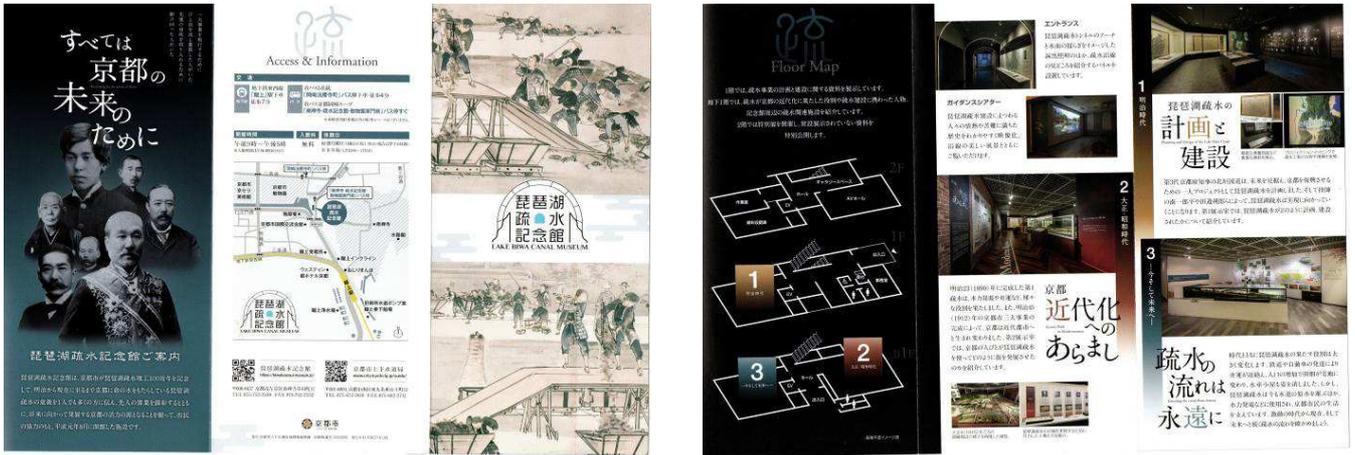
市バス 5系統 「岡崎法勝寺町」下車 徒歩4分

京都岡崎ループ「南禅寺・疏水記念館・動物園前」すぐ

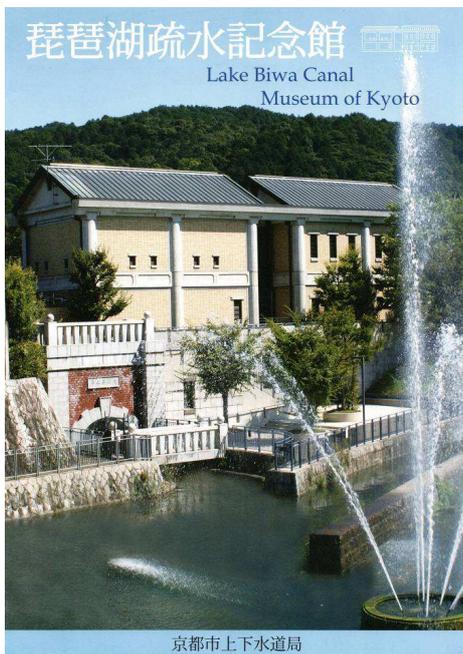


取材・文責：JH3MKP/岡口 正幸

琵琶湖疏水竣工100周年記念碑



リニューアル後の新しい折りたたみ式パンフレットです。



こちらはリニューアル前の A4版のパンフレット



琵琶湖疎水記念館HPやこのページにあるような各種パンフレット、広報資料等を参考にさせていただきました。

